

調布東山病院
リハビリテーション科

訪問リハビリの
ご紹介

5 ページ

つなぐ

医療法人社団東山会 地域連携室 広報誌 2017.9.1 発行

No. 6



医療技術部・臨床工学部 部長

ご挨拶

いつも東山会との地域連携にご協力いただきまして誠にありがとうございます。当法人のコメディカル部門は医療技術部と臨床工学部の2部で構成されています。各技術専門職は診療放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士そして臨床工学技士の8職種、総勢約60名が調布東山病院を中心に桜ヶ丘東山クリニックと喜多見東山クリニックの2カ所の血液透析専門クリニックに配属されています。

我々は、院内・外からのニーズに対し、日々進化する医療技術の習得と研鑽に努め、職種間の枠を超えた良好なコミュニ

ケーションを図り、部門の共通言語である「応える」を追求し続けています。

各部署は、法人ドメインの

- ①生活支援型急性期病院での救急、外来診療ならびに在宅復帰に向けた退院支援の強化
 - ②在宅・訪問医療でのリハビリ、薬剤、栄養部門を中心とした地域連携
 - ③ドック健診センターでの予防医学の視点からの検査、画像診断技術の強化
 - ④血液透析部門での保存期から導入期そして維持期に至る慢性および急性血液浄化での安心と安全な治療環境の構築
- これらのあるべき姿を描き、ス



医療技術部・臨床工学部
部長 富樫充彦

タッフ全員主役の意識で日々取り組んでおります。

迫りくる超高齢化社会に対し、“地域で支えるその人らしい生活環境”と“地域医療”の実現に向け、コメディカル部門は各種技術の向上に努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻の上、よろしくお願い申し上げます。



トピックス

7月11日「第12回 調布医療連携カンファレンス」を開催しました



東山会では、医療従事者の知識・技術の向上を図り、互いに顔の見える連携を築くことを目的に、2012年5月から調布医療連携カンファレンスを行っています。第12回は、当院リハビリ科・大熊るり医師が講師をつとめました。多くの地域の先生方、多職種の皆さまにご参加いただきましたことに心よりお礼申し上げます。

ーどのような考え方で嚥下リハビリを進めるか？ カンファレンスの振り返りー

今回は、「摂食嚥下障害のリハビリテーション～最期まで口から食べるために～」というテーマでお話しました。摂食嚥下障害のリハビリテーションは、嚥下障害によって生じる誤嚥性肺炎や窒息、栄養障害などを防ぎながら、患者さんの「食べる楽しみ」をどうやって回復あるいは維持していくか、がメインテーマです。安全に食べていただくためには、まず摂食嚥下の仕組みを知り、摂食嚥下の過程のどこが、どの程度、なぜ（何が原因で）障害されているのかを考え、問題点を把握する必要があります。

前回は2年前、「摂食嚥下障害の評価・診断」をテーマに、嚥下障害に関する基礎的な話や、スクリーニングテスト、機器を用いる検査などについてお話しました。今回は、どのような考え方で嚥下リハビリを進めるか、ということを中心にお話しました。

嚥下訓練は、食べ物を食べずに行う間接訓練と、実際に

食べることで嚥下機能を向上させる**摂食訓練**の2種類に分けられます。代表的な間接訓練として、食べる前の体操、頭部挙上訓練、バルーン拡張訓練などをご紹介しました。摂食訓練では「いかに誤嚥させることなく練習を継続できるか」が重要です。

誤嚥予防の大きな柱は、摂食時の姿勢の調整と、食物形態の調整です。姿勢調整（特にリクライニング位を用いる場合）の理由や注意点についてお話しました。また、食物形態の調整については、飲み込みやすい食形態や、注意を要する食品などについてお話ししました。

多くの病院や施設で提供されている「キザミ食」は、嚥下調整食として不適切であることを知っていただくため、10gのキュウリをそのままと刻んだ状態で準備し、試食の時間を設けました。多くの方は、キザミキュウリの食べにくさに驚いておられ

ました。また、2種類の濃さのトロミ茶の試飲も行いました。「思ったよりまずくない」「濃いトロミはかえって口に残る」など様々な感想が飛び交い、盛り上がりました。[文／大熊 るり（リハビリテーション科医師）]



当院では、外来や短期入院での嚥下機能評価を行っております。嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査をご希望の方がおられましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

問い合わせ／地域連携室

(042-481-5044)

右ページでは嚥下機能評価に携わるスタッフを紹介しています！

次回の第13回調布医療連携カンファレンスは、2018年1月23日（火）19時30分～を予定しています。



（左）そのままのキュウリと“きざんだ”キュウリを10gずつ食べ比べ （右）トロミ茶の試飲



とうざん's

嚥下機能評価に携わるスタッフの紹介



摂食・嚥下障害看護認定看護師
甲斐 明美

昨年の4月から入職しました摂食・嚥下障害看護認定看護師の甲斐明美です。認定看護師となって12年目となり、摂食嚥下障害看護の対象者が、脳卒中モデルから高齢者モデルへ変遷していることを実感しています。東山病院でも高齢肺炎の患者が多く、同職の看護師の仲間や、多職種の方々と協働し、6階病棟にご入院される患者さまを中心に食べる機能の評価や介助、家族指導等を行っています。今年度は、高齢者の口腔内評価に適しているOHAT（口腔ヘルスアセスメントツール）を導入し、口腔内にトラブルが生じ

ている方々の早期介入や、スタッフへの啓蒙活動を行いつつ、ケアの標準化の取り組みも開始いたしました。

医療の現場では様々な代替栄養も活用されていますが、「口からおいしく食べる」に勝る栄養手段はありません。きれいな口で、おいしく食べることは人として守らなくてはならない尊厳の一つと考えています。「食べる、食べ続ける」ことが難しいケースもありますが、その人の希望に沿った「食べる」機能の回復・維持に寄り添うケアを提供していけるよう頑張っていきたいと考えています。



リハビリテーション科 言語聴覚士（ST）
加藤 あすか

コミュニケーションを扱う仕事を志し、TV番組制作の現場からSTに転身して18年目。摂食嚥下の領域に深く関わるにつれ、「食べ物を口に運ぶ⇒口を開けて食べるという形で伝える」ということは、まさにコミュニケーションそのものだと感じています。摂食・嚥下に関するSTの業務は、嚥下評価、摂食訓練、間接訓練と多岐に渡りますが、当院の場合高齢の誤嚥性肺炎の患者さまが多く、自宅や施設に戻られた後に再発しないよう、姿勢・食形態・介助方法をご家族に指導したり、退

院前カンファレンスで施設・在宅スタッフに伝えることに特に力を入れています。また、がん・認知症・老衰などで終末期を迎えつつある方々が、最期の一口まで少しでも安全に食べ続けるための支援にも多職種で力を合わせて取り組んでいます。

調布東山病院に来て2年半、今後は地域の皆さまと顔の見える連携をもっと深めていきたいと思っています。何かの機会に姿を見かけたら、「とうざん通信つなぐ見ましたよ」と気軽にお声をかけてください！



栄養科 管理栄養士

栄養科ではパートを含む5名の管理栄養士がおり、今年度からは病棟担当を配置し、より患者さまに寄り添って働けるようになりました。

最近では高齢者の誤嚥性肺炎による入院が増え、その方に合った食形態の大切さを日々、感じています。病院の食事は「嚥下調整学会分類2013」をもとに、目的に応じて柔らかさ、滑らかさ、まとまりやすさに配慮した食事を提供しています。

退院に向けた食事調整では、患者さまの状態に

合わせて、食事の制限や食形態、咀嚼・嚥下機能に応じた食材の選び方、固さの調整、とろみの濃度などについて、リハ医や言語聴覚士などと連携し、低栄養にも配慮しながら食事相談を行っています。

入院から在宅まで安心してお食事を召し上げられるよう、摂食嚥下機能低下や低栄養などの食事の相談を外来栄養指導でも行い、シームレスな支援を行いたいと思います。



トピックス

5月20日 第92回 とうざん生活習慣病教室を開催しました

とうざん生活習慣病教室とは？

患者さま向け講演会“とうざん生活習慣病教室”の前身である“成人病教室”が開始されたのは1988年(昭和63)4月のことです。現名誉院長の吉田尚義医師の「慢性疾患の患者教育は診察室で一人ひとりに行うより、集団で行ったほうが良いのでは」という思いからスタートしました。

今回の講師は慈恵第三病院から

第92回は、『手術で治せる認知症～認知症の正しい理解と早期発見のために～』をテーマに、慈恵第三病院脳神経外科の石井卓也先生にお話しいただきました。当日、会場には約40名もの方々が来場。認知症への関心の高さがうかがえました。



慈恵第三病院脳神経外科の石井卓也先生(左)と、当院の吉田尚義名誉院長(右)

次回のとうざん生活習慣病教室

10月21日(土) 14時～ 当院7階会議室

事前の参加申し込み不要！

加藤泰一先生(前さいたま赤十字病院 院長、当院 非常勤医師)をお招きし、『高脂血症(脂質異常症)の最新治療－食事療法と薬物療法－』についてお話しいただく予定です。患者さま向けの内容ですが、どなたでも聴講いただけます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



加藤泰一先生



トピックス

7月20日 調布市主催 小学生と保護者対象ヘルスアップ教室の講師をつとめました

昨年につづき、熊谷真義医師(糖尿病内分泌内科)が調布市内の小学校4・5・6年生とその保護者を対象とした〈生活習慣病〉教室の先生をつとめました。「Dr. くまがいにつづけ! 生活習慣病を学んでこどもドクターになろう!」と銘打ち、クイズを盛り込んだ講義やからだを使ったゲームで生活習慣病について学びました。最後は児童たちに“こども医師免許証”を授与。こどもドクターとなった

児童たちに、家族の健康を守ってもらう約束をしました。開催日は一学期の終了日。これから夏休み



オリジナルゲームでからだをめいっぱい動かして、カロリー消費と運動の関係を学びました。

を迎える子どもたちに、“自由研究”にぴったりの学びをプレゼントして、会は終了しました。



病名を一人一文字ずつ応えるクイズでは、みんなが力をあわせて全問正解しました。すごい!

山田隆 Dr. の 季節の植物図鑑 Vol. 6

ホタルブクロ

キキョウ科の多年草。日本各地の山野で見られる。茎は直立し、高さは30cm～80cm、種子のほか、地下のつる枝でも繁殖する。花期は6月～7月、花冠は長さ4～5cm、釣り鐘型で先端は5裂し下向きに開く。色は淡紅紫色か白色。



とうざん's

訪問リハビリのご紹介



日常生活の自立や、主体性のある

“その人らしい”生活の再建、質の向上を

私たち東山会の訪問リハビリスタッフは、リハビリテーション医師、理学療法士、作業療法士で構成されています。通院が困難な方のご自宅に訪問し、起き上がり・立ち上がり・自宅内移動といった基本動作はもちろん、入浴動作・トイレ動作などの日常生活動作の練習や、ご家族への介助指導などを行っています。また、家事・趣味活動・外出など活動範囲の拡大を図り、地域で生き活きと暮らすお手伝いをいたします。

主治医やケアマネジャーと連携し、利用者さまが安心して在宅生活を送れるようサポートしていきます。訪問リハビリをご希望の方は、担当ケアマネジャーまたは主治医にご相談ください。

訪問リハビリの内容

- ①身体機能の評価
- ②身体機能訓練
- ③起き上がり・立つ・歩くなどの訓練
- ④トイレ・入浴などの生活動作訓練
- ⑤買物・掃除などの家事動作訓練
- ⑥日常生活の介助方法の指導
- ⑦住宅改修・福祉用具の検討など生活環境への助言
- ⑧社会参加への関わり

こんな時にも

転ぶほどではないが、ふらつくようになっている気がする……など、気になる利用者さまがいらっしゃる場合には、主治医の指示があれば、評価を実施後、生活や自主トレなどのアドバイスを、1ヵ月程度の短期間で行うこともできます。

こんなケースで訪問リハビリが利用されています!

在宅での急性増悪

例: 自宅内で転倒を繰り返し、骨折などはないが動けなくなっている。

目標: 転倒がなく、安全に自宅内を移動できる。

→急性増悪の原因確認、転倒場所や状況の確認、転倒時の対策を図る。

ここ1ヵ月で3回転んだ

進行性疾患

例: パーキンソン病を発症し、自宅内で転びやすくなった。

目標: 進行状況に合わせ、安全で安定した生活がすごせる。

→進行状態の確認、状況に合わせた生活動作の提案や、介助指導の実施。必要に応じ、住宅改修や福祉用具を選定。現在の運動機能を極力維持できるための自主トレの提示と習慣化を図る。

動きづらくなってきたけれど...

離床機会の評価

例: 入院を機にほぼ寝たきりの生活になった。

生活や体調は落ち着いており、車椅子に乗せられるのであれば、乗せられるようになりたいと家族から希望があった。

目標: 車椅子に乗ることができるか評価する。可能であれば、乗車時間の拡大や家族介助で車椅子に乗せられるようになる。

→バイタルサインを見ながらの起居、座位、車椅子移乗評価、介助指導の実施。

少しでも起きられないかしら?



あっ！ 調布にこんなところが

調布の野菜と新鮮魚介を楽しめる隠れ家

もりとく

一人でふらりと、はたまた気心が知れた仲間と美味しい肴と酒を求めて訪れたいのが京王線布田駅から徒歩1分の「もりとく」です。店内はカウンター8席のみ。壁にかけられた黒板には、ボタンエビ刺身、新子酢メ、水茄子サラダ……と、その日オススメの新鮮な魚介や野菜を使った料理がずらりと並びます。

ご主人の高橋さんは、39年前に狛江市で店を開いてから下北沢、代々木上原とまちを移り、2014年に布田駅前にもりとくを開店。以前から調布には野菜を仕入れに訪れており、調布産のおいしい野菜に惹かれたのがこの地を選んだ理由のひとつのことです。魚の仕入れはバイクで築地へ。暑い夏にはオコゼなど夏魚の刺身、火照ったカラダを落ち着かせ



旬の魚 調布野菜処 もりとく

- 調布市国領町 5-72-1
(京王線布田駅徒歩1分)
- 営業時間 /17時～23時
- 定休日 / 月曜日
- 電話 /042 - 444 - 1388



◀ムギイカ焼き。
オコゼ、イサキ、ウニ、
ボタンエビなど刺身の盛
り合わせ(3人前)



▲アナゴと茶そばの海苔巻き
寿司はゆず胡椒をつけて



てくれる冷たい茶碗蒸しと、いつ来ても四季折々、その時々には食べたい料理を味わえます。

魚料理が中心とはいえ、若いお客さんも多いことから鴨などの肉、またリクエストがあればピザも焼くというご主人。自家製の梅酒やボン酢もぜひ味わいたい逸品です。

近所の方はもちろん、狛江、下北沢、代々木上原時代のお客さんも通うのは、ご主人の温かい笑顔と美味しい料理に会えるから。カウンターに並んだお客さん同士のおしゃべりも楽しく、食と酒がまた進みます。

気になる……！ 調布東山病院のお隣について

9月29日(金)、工事が続いていた調布駅周辺に「トリエ京王調布」がついにオープン！〈調布らしい“ちょっとステキ”な生活〉をコンセプトに、全3館が開店します。当院のお隣の館には、シネマコンプレックス「イオンシネマ シアタス調布」が入店。病院周辺が華やかに生まれ変わりそうです。

調布東山病院



「映画のまち調布」を体現するランドマークがお隣にオープンするなんて嬉しいクワ！ きたみんなもさっそく映画を観に行きたいクワ〜

トリエ京王調布C館



トピックス

これからの地域のイベント 東山会のイベント

10月21日(土) 13時30分～ 「第2回 ちょうふ地域見守り訓練」



昨年10月、多摩川地区で行われた「地域見守り訓練」が今年も開催されます。この訓練は、「認知症の方が行方不明になった」という想定で、認知症の高齢者に扮した方を探すというものです。まちの中で、「自宅に帰れない」「どこに行くつもりだったのか分からない」と戸惑っている方に、どう声をかけて手を差し伸べるのか。実体験を通じて学んでいただけます。

- 日時 / 2017年10月21日(土) 13時30分集合
- 集合会場 / そんぼの家調布多摩川(多摩川3丁目)
- 参加申込み / 当日参加もできますが、できれば申込をお願いします。(調布市地域包括支援センター せいじゅ: 042-483-1358)

11月13日(月)～19日(日) 日没～21時まで “世界糖尿病デー”ブルーライトアップ

world diabetes day
14 November

11月14日は“世界糖尿病デー”です。糖尿病の予防や継続治療の重要性を伝えるこの日のモチーフカラーであるブルーの光で、調布東山病院をライトアップします。また、19日(日)には当院でイベントを予定。詳細は決まり次第、お知らせします。

10月29日(日) 8時30分～12時 「3病院合同防災訓練」

当院では4年前より災害訓練を開始し、2回目には調布市役所、医師会、歯科医師会、薬剤師会、東京都柔道接骨師会の皆さま、昨年の3回目にはさらに傷病者役ボランティアとして地域住民の皆さまと一緒に訓練ができるようになりました。

そして今年は、調布市と狛江市を中心に初めて企画された「3病院合同防災訓練」(狛江市／慈恵第三病院、調布市／青木病院・調布東山病院)の会場に選出され、より広域での防災訓練を開催できる運びとなりました。複数病院で訓練を同日開催することはこの地域で初めての取り組みです。例年行っているトリアージ訓練に加え、近隣のDMATの出動要請や病院間搬送も予定されています。



昨年の訓練の様子。今年は実際に病院間の搬送を行います。

先生をはじめ医療機関の皆さま

当日は、本番さながら「調布市医療災害対策本部」がたづくり西館4階に設置され、医師会理事の先生方はそちらに出動されます。訓練現場である3病院では、理事以外の先生方のご協力が必要不可欠です。医師会を中心に先生方、また看護師・事務職の皆さまの参加を募集しております。ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。

■問い合わせ先 / 医師会事務局 (042-483-8648)

地域の皆さま

★傷病者役ボランティアを募集しています！
災害訓練で、傷病者役をお願いできる方を募集しています(この記事では、調布東山病院での訓練に参加いただける方を募集しています)。もし自分や家族が地震によってけがをした時、病院ではどのような災害時の体制で対応をするのか体験していただけます。興味のある方は、お問い合わせください。

■問合せ / 調布東山病院
経営企画部 (042-481-5583)



昨年の災害訓練でのボランティアの方向けオリエンテーションの様子



地域連携室より

お知らせ

～ 地域の先生からのご紹介患者さま専用 ～

“外来診療”と“内視鏡検査”に〈地域連携枠〉を新設しました！



まだまだ暑さが続きますが、晩には秋虫の声が聞こえ、季節は着実に秋へ向かっているようです。2017年度も折り返し地点となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

私たちは、今年度の目標の一つである「ご紹介患者さまのよりスムーズな受け入れ」に一步近づくため、9月1日より外来診療と内視鏡検査に〈地域連携枠〉を新設いたしました。この枠は、地域の先生からご紹介いただいた患者さま専用の予約枠です。

これまで患者さまをご紹介いただく際に、〈予約日の確定に院内調

整が必要となり、回答まで長時間お待たせしてしまう〉〈近い日程の予約枠が埋まっていて、ご紹介患者さまの受診・検査日が遅くなってしまう〉という状況が発生しておりました。地域連携枠を設けることで、院内調整の必要が少なくなり、空き予約枠を近日まで確保することができ、より地域の先生方のご要望に迅速に応えることが可能となりました。

今後もスムーズな連携に向けて、当院の体制を一つずつ整えてまいります。引き続きご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。[地域連携室課長 杉田 薫]

地域連携枠の内訳

●外来診療 各医師に1枠

※紹介状をお持ちの患者さまから地域連携室へお電話をいただき、予約を取ること可能です。

●内視鏡検査

胃カメラ 10:00 1枠

大腸カメラ 13:30 1枠

※医療機関からのみの予約とさせていただきます。

予約方法

地域連携室にお電話をいただくか、「診療・検査予約申し込み書」をFAXでお送りください。

地域の薬剤に携わる仲間向けイベント

第12回 調布薬業連携の会

10 / 14 日 (土) 18時30分～20時

テーマ「地域で取り組む喘息・COPD 患者への吸入指導 ～吸入指導ネットワークの構築～」

前半：尾形英雄医師 講演

(公益財団法人結核予防会複十字病院 副院長、当院非常勤医師)

後半：吸入指導ネットワーク構築にむけての話し合い

会場／調布東山病院
7階会議室

問い合わせ／調布東山病院薬剤科
(電話：042-481-5594 FAX：042-481-5519)

地域の医療介護を支える仲間向けイベント

第7回 調布東山病院 医療・介護勉強会

～ その人らしく暮らせる地域を目指すために ～

特別講演「ユマニチュード」～第2弾～

今回は、ユマニチュードの哲学と技術を、講義とともにワークショップで実践しながら一緒に学びたいと考えています。※参加申し込みの詳細は後日ご案内いたします。

日時／11月10日(金) 18:30～20:30 (開場 18:00)

会場／調布東山病院 7階 食堂 参加費／無料 定員／100名
お問合わせ／調布東山病院 居宅介護支援室 小笠原 (042-481-5731)

医師向けイベント

第13回 調布医療連携カンファレンス

2018年1月23日(火) 19時30分～開催予定

講師／肝臓内科 佐藤 雅哉 先生 (東京大学医学部附属病院 検査部)

テーマ／『NASH(=nonalcoholic steatohepatitis 非アルコール性脂肪性肝炎)』

ご参加を心よりお待ちしております。※参加申し込みの詳細は後日ご案内いたします。

前回の第12回カンファレンスの記事(2ページ)もぜひご覧ください。

地域の皆さま向けイベント

地域連携室 運動療法教室 9月30日(土) 14時～15時 椅子ヨガ & 簡単ダンス教室

会場／調布東山病院7階会議室

参加費／無料

申し込み／地域連携室までお電話をお願いします。

地域連携室

診察・検査・入院など、お気軽にご相談ください。

TEL：042-481-5044 (直通)
FAX：042-481-5056

月～土・9:00～16:30
日祝日・休み

編集後記 連携機関向け広報誌『つなぐ』も6刊目となりました。「お役に立てる情報を発信するにはどうすればよいか」日夜悩みながら、心を込めて作り上げています。読後感など、広報課や地域連携室にお伝えいただけますと幸いです。(広報課)
表紙撮影：宇佐見 佳代

編集／発行
調布東山病院 経営企画部広報課
TEL：042-481-5583 FAX：042-481-5535